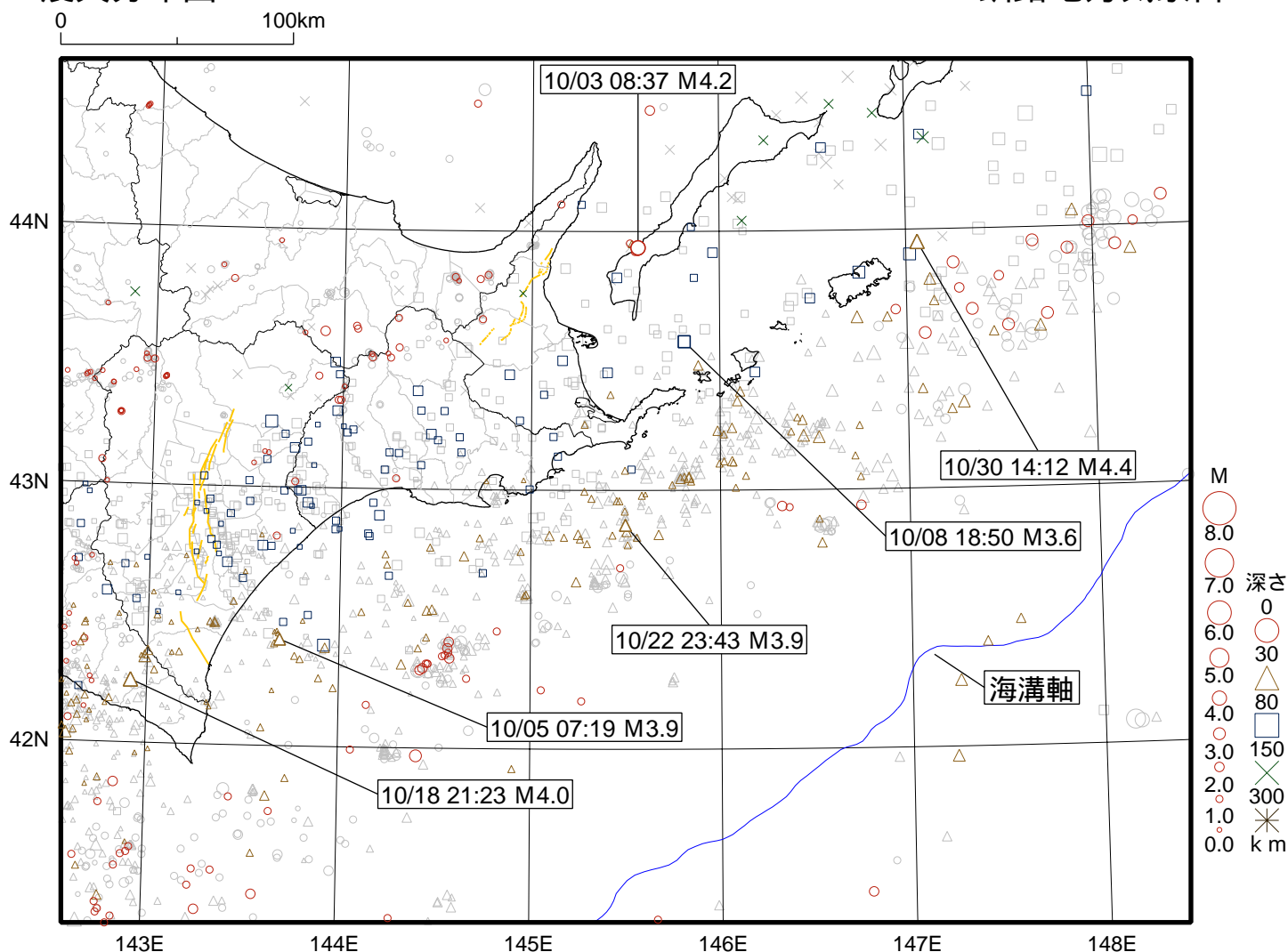


釧路・根室・十勝地方の地震活動図

2020年10月1日～2020年10月31日

震央分布図

釧路地方気象台



地震概況（2020年10月）

この期間、釧路・根室・十勝地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は6回(9月は14回)で主な地震は次のとおりです（詳細は「釧路・根室・十勝地方で震度1以上を観測した地震の表」を参照）。

3日08時37分、国後島付近を震源とする地震(M4.2、深さ21km)により、羅臼町で震度2を観測しました。

5日07時19分、十勝沖を震源とする地震(M3.9、深さ57km)により、大樹町で震度2を観測したほか白糠町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町で震度1を観測しました。

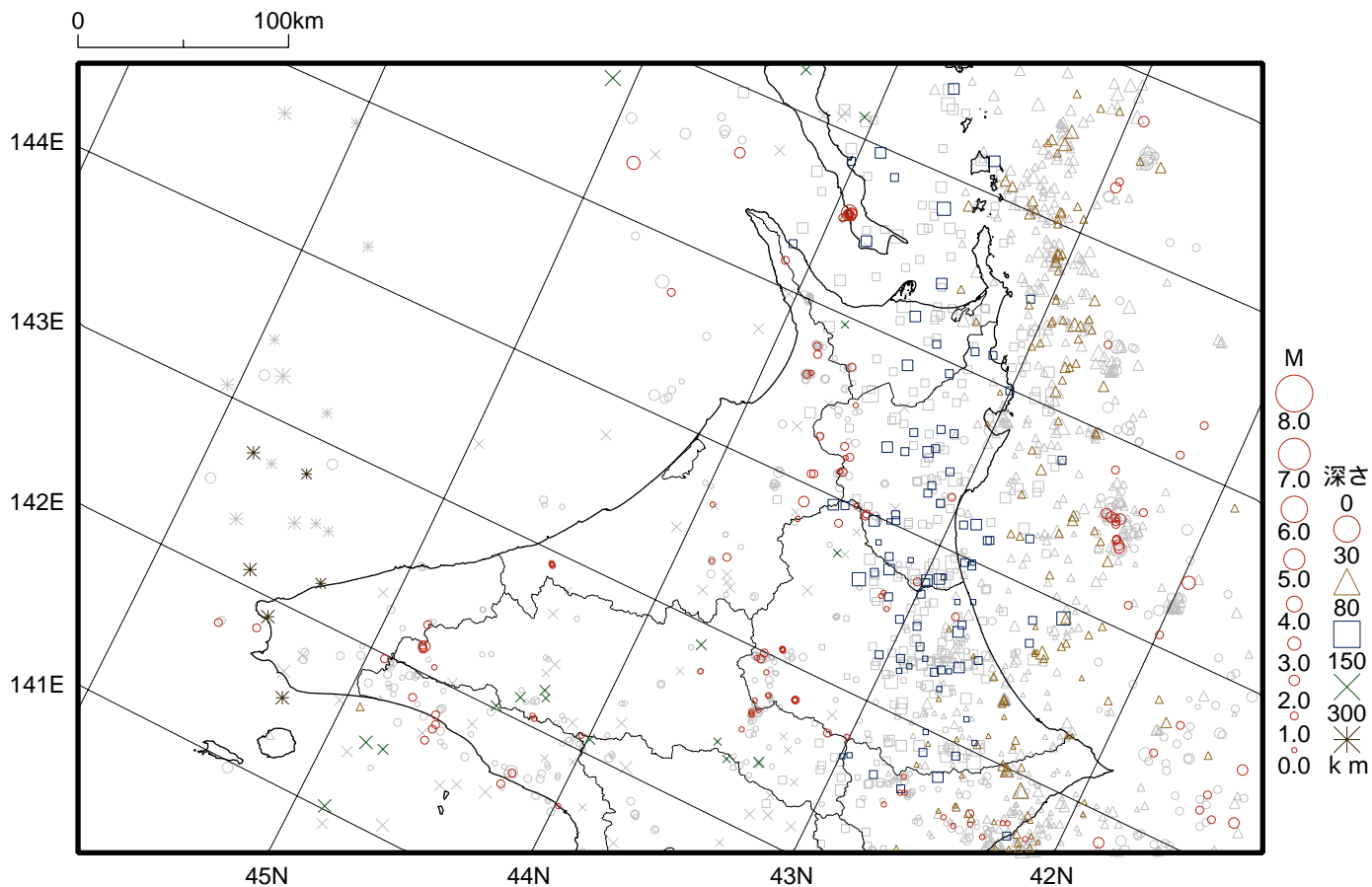
22日23時43分、釧路沖を震源とする地震(M3.9、深さ36km)により、浜中町、根室市で震度2を観測しました。

30日14時12分、北海道東方沖を震源とする地震(M4.4、深さ70km)により、浜中町、根室市で震度2を観測したほか、標茶町、白糠町、標津町、羅臼町、別海町で震度1を観測しました。

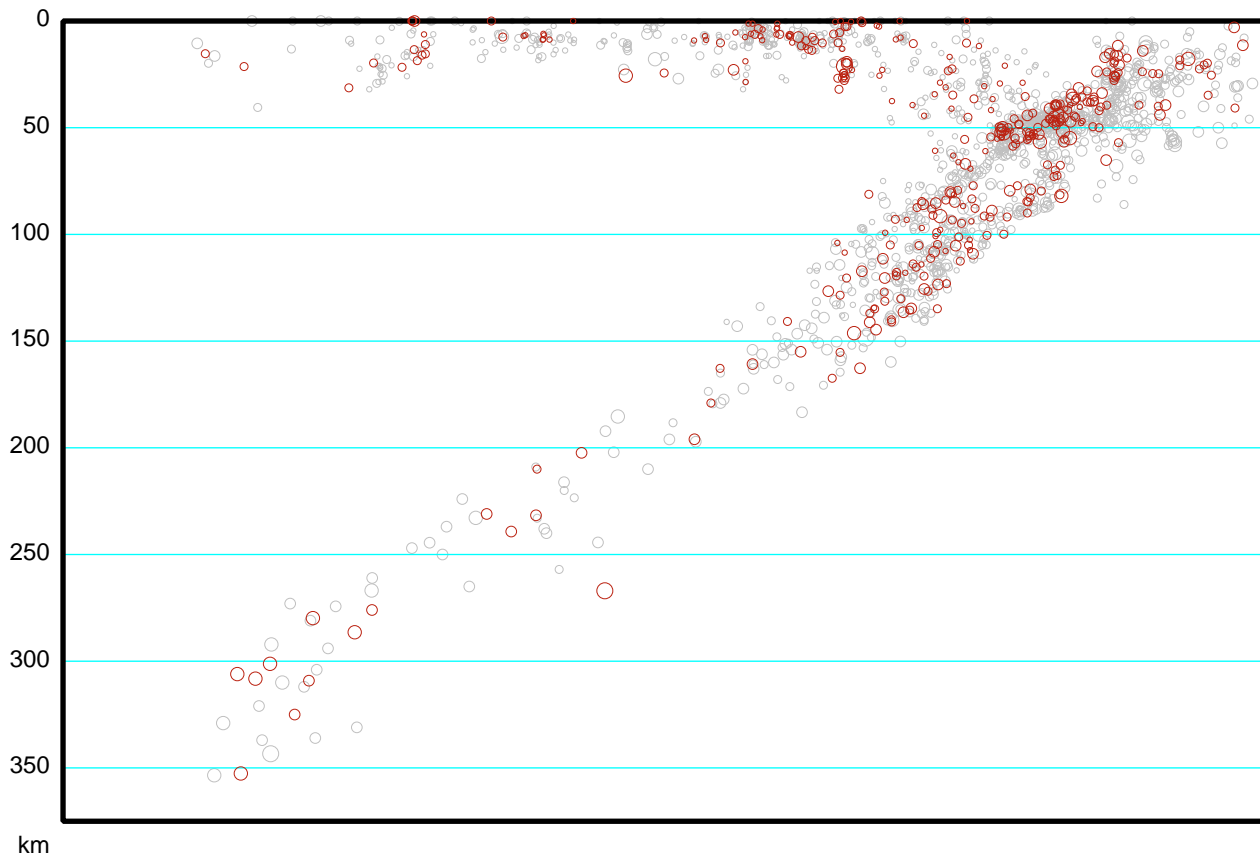
この活動図は、釧路地方気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/kushiro/>）に掲載しています。
この資料に関する問い合わせ先 釧路地方気象台 TEL 0154-31-5110

2020年10月1日 ~ 2020年10月31日

震央分布図



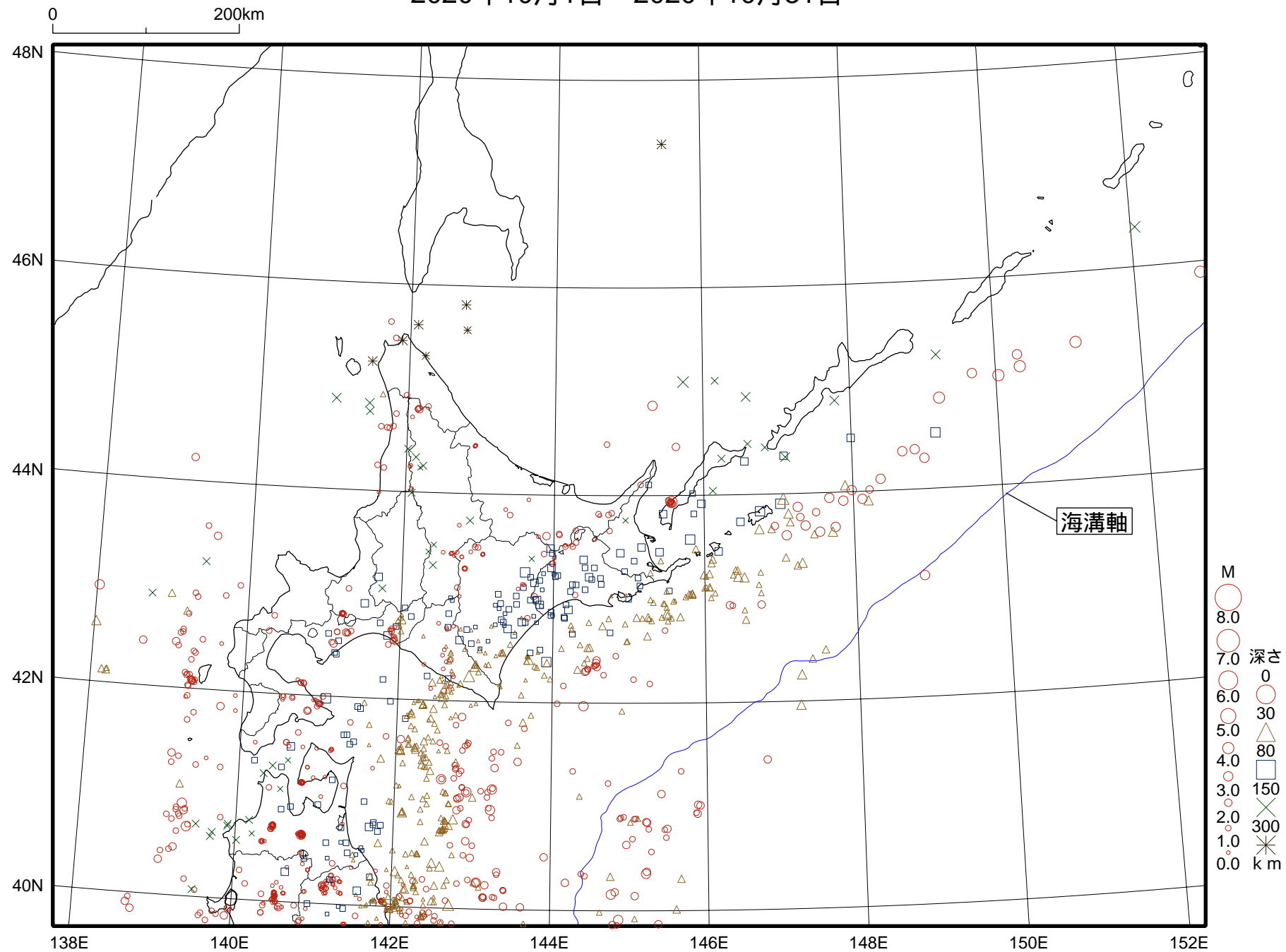
断面図



北海道の地震活動図

2020年10月1日 ~ 2020年10月31日

震央分布図



釧路・根室・十勝地方で震度1以上を観測した地震の表(2020年10月)

年月日 地方	時分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯(N)	東経(E)	深さ(km)	規模(M)
2020年10月3日 根室地方	08時37分 震度2 震度1	国後島付近 羅臼町岬町*(16) 羅臼町春日(07) 羅臼町緑町*(11)	43°56.2 N	145°33.9 E	21 km	M4.2
2020年10月5日 十勝地方 釧路地方	07時19分 震度2 震度1 震度1	十勝沖 十勝大樹町生花*(17) 幕別町忠類錦町*(09) 幕別町本町*(06) 十勝池田町西1条*(11) 豊頃町茂岩本町*(07) 本別町向陽町*(05) 十勝大樹町東本通*(06) 白糠町西1条*(07)	42°24.6 N	143°41.3 E	57 km	M3.9
2020年10月8日 根室地方	18時50分 震度1	国後島付近 標津町北2条*(05) 根室市牧の内*(06) 根室市瑛瑠瑠*(08)	43°34.4 N	145°48.6 E	91 km	M3.6
2020年10月18日 十勝地方	21時23分 震度1	日高地方東部 芽室町東2条*(08)	42°14.5 N	142°54.9 E	54 km	M4.0
2020年10月22日 釧路地方 根室地方	23時43分 震度2 震度2 震度1	釧路沖 浜中町茶内*(16) 根室市牧の内*(15) 根室市厚床*(13) 根室市落石東*(11) 根室市瑛瑠瑠*(13)	42°51.9 N	145°29.8 E	36 km	M3.9
2020年10月30日 釧路地方 根室地方	14時12分 震度2 震度1 震度2 震度1	北海道東方沖 浜中町茶内*(16) 標茶町塘路*(11) 白糠町西1条*(05) 根室市落石東*(18) 根室市瑛瑠瑠*(16) 標津町北2条*(11) 羅臼町岬町*(07) 別海町常盤(08) 別海町本別海*(08) 根室市弥栄(07) 根室市牧の内*(12) 根室市厚床*(11)	43°57.1 N	147°03.6 E	70 km	M4.4

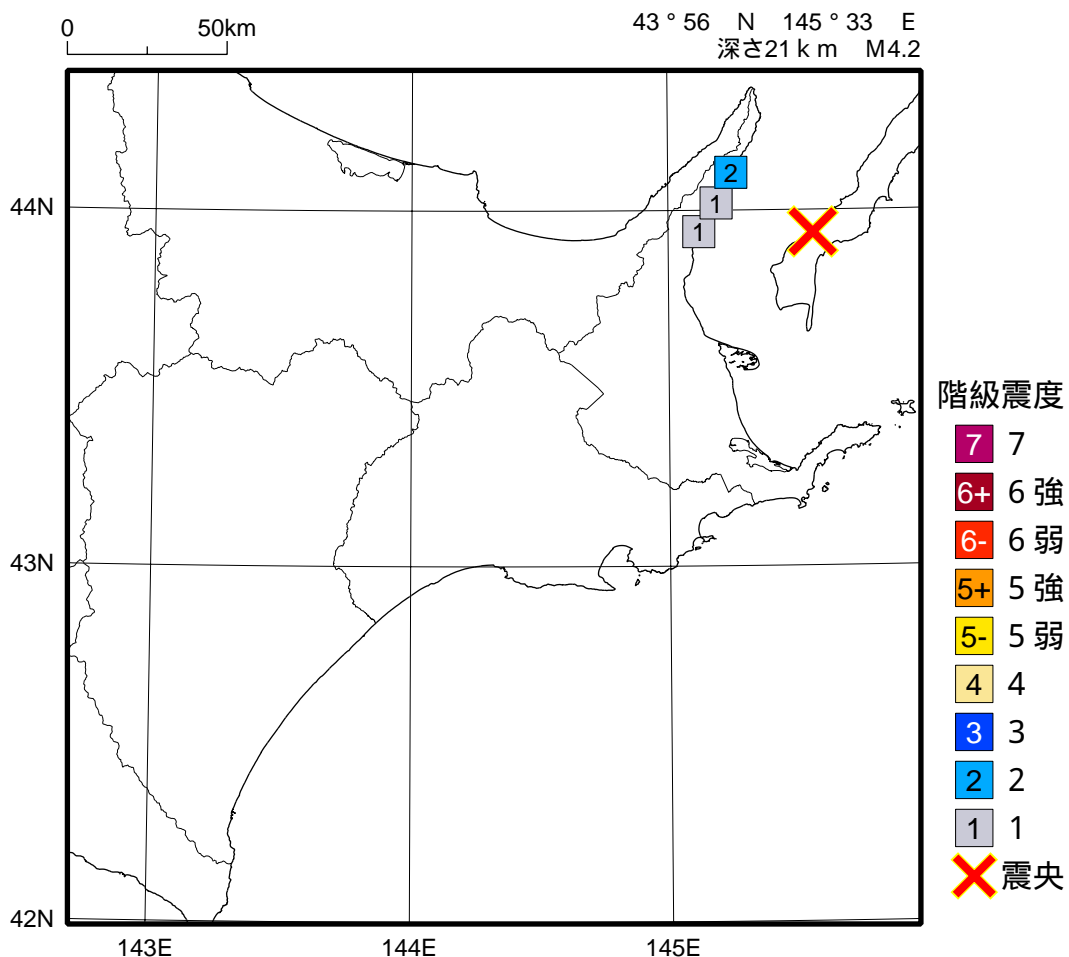
*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度(計測震度)の小数点を省略して表しています。

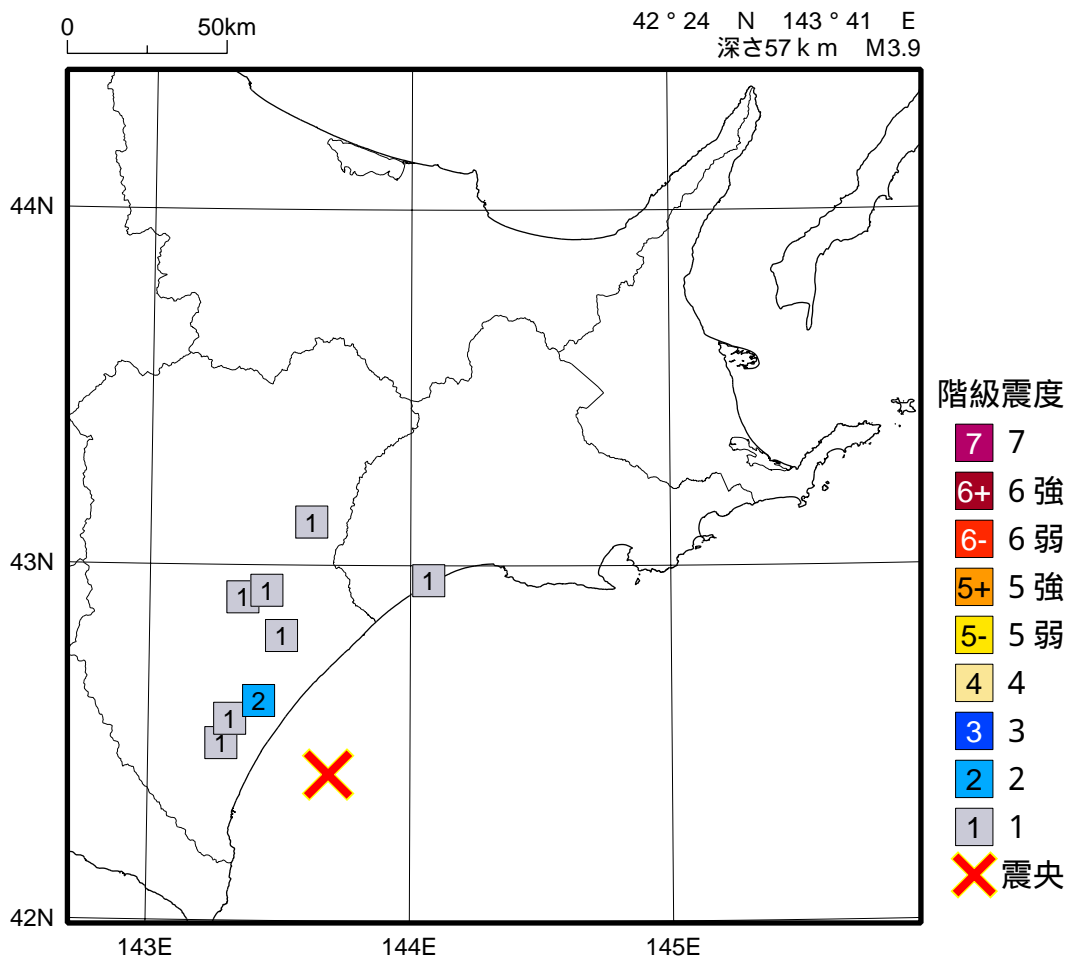
計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

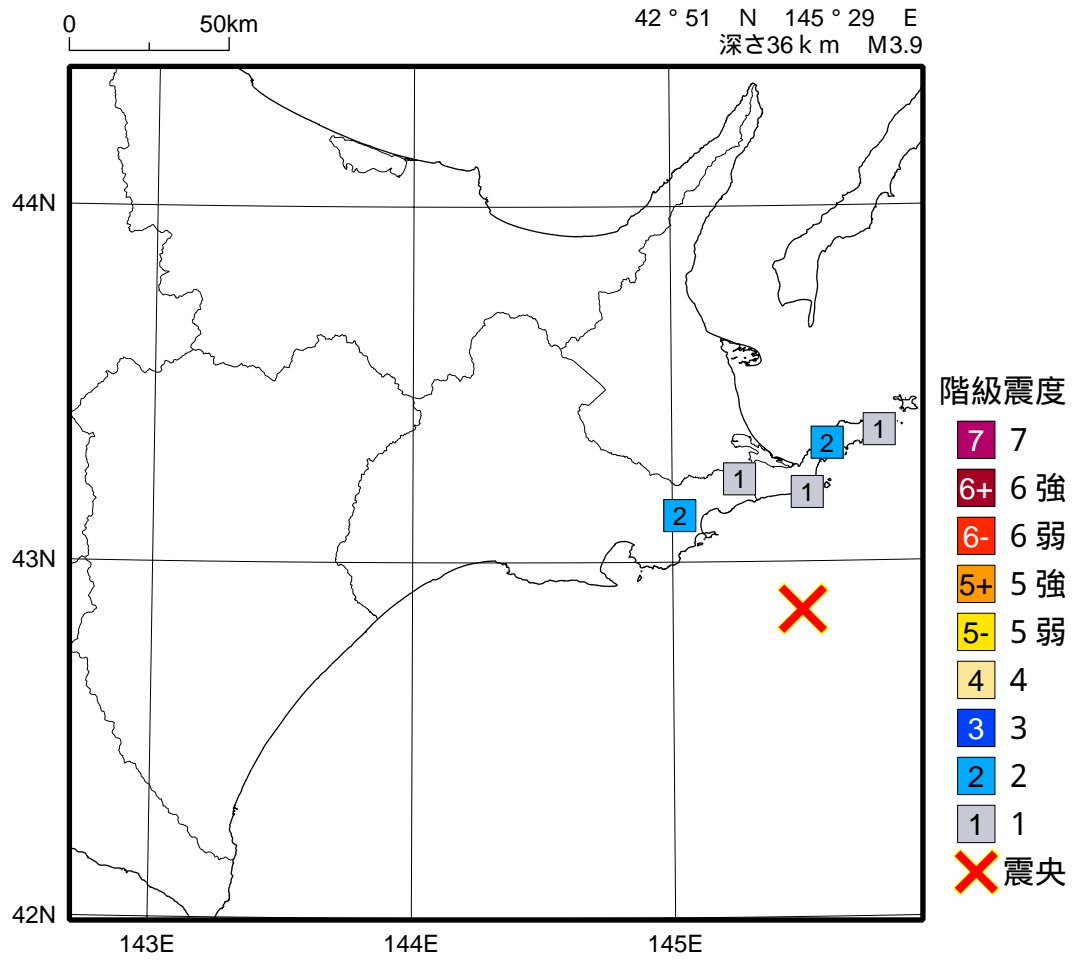
2020年10月 3日08時37分 国後島付近の地震の震度分布図



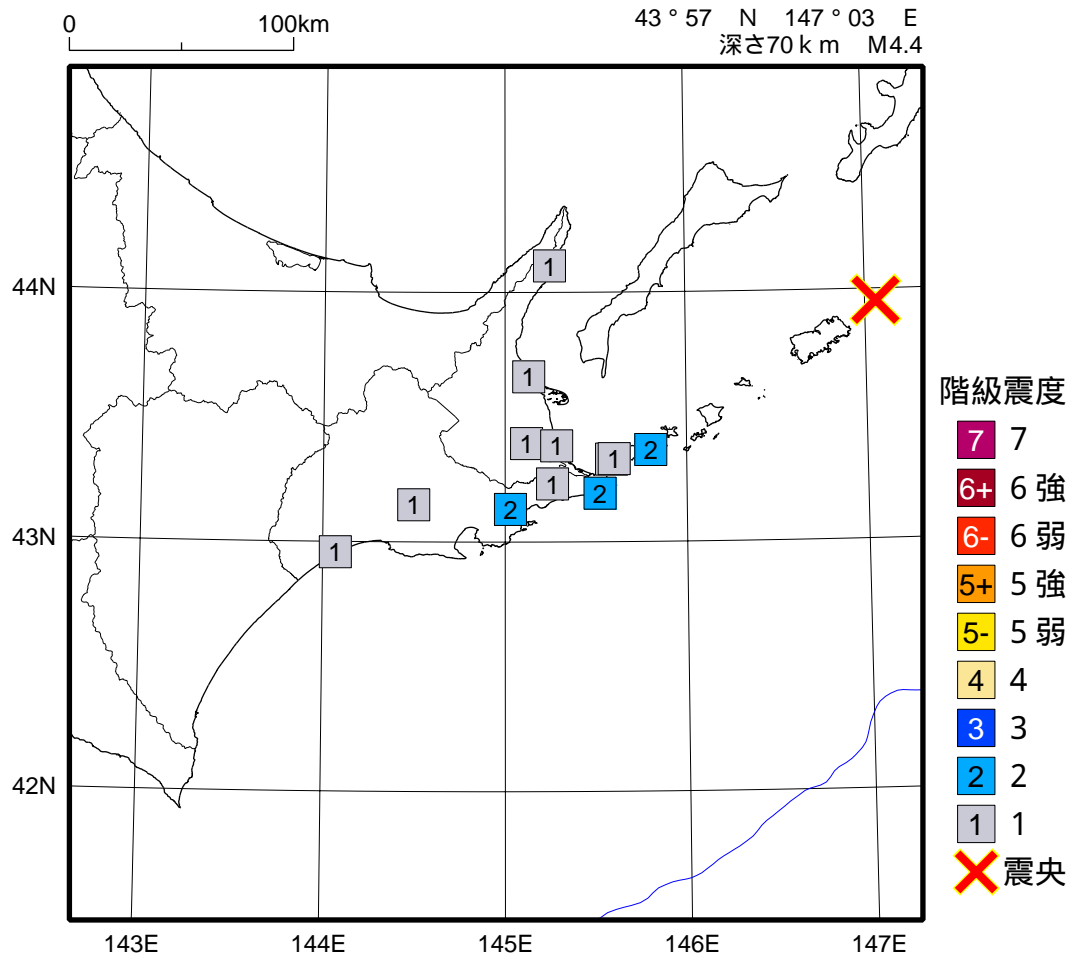
2020年10月 5日07時19分 十勝沖の地震の震度分布図



2020年10月22日23時43分 釧路沖の地震の震度分布図



2020年10月30日14時12分 北海道東方沖の地震の震度分布図



本資料の利用にあたって

- ・ 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・ 2020年4月18日から10月23日まで、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震の震源決定数の変化が見られることがあります。
- ・ 2020年9月以降の地震は、それ以前と比較して、処理方法の違い等により、震源の見かけ上の位置や震源決定数に変化が見られることがあります。
- ・ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。また、過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

【防災メモ】

～陸域の浅い地震～

地球の表面は十数枚の巨大な板状の岩盤（プレート）で覆われており、それぞれ別々の方向に年間数cmの速度で移動しています（プレート運動）。日本列島周辺では、複数のプレートがぶつかり合うため、岩盤にひずみが蓄えられます（図1）。そのひずみを解放するときに岩盤がずれ動き、地震が発生します。地震はプレート境界や海のプレート内で発生する地震（海溝型地震）のほか、陸域の浅い所（深さ約20kmより浅い所）でも発生します。この地震を「陸域の浅い地震」と呼びます（図2）。

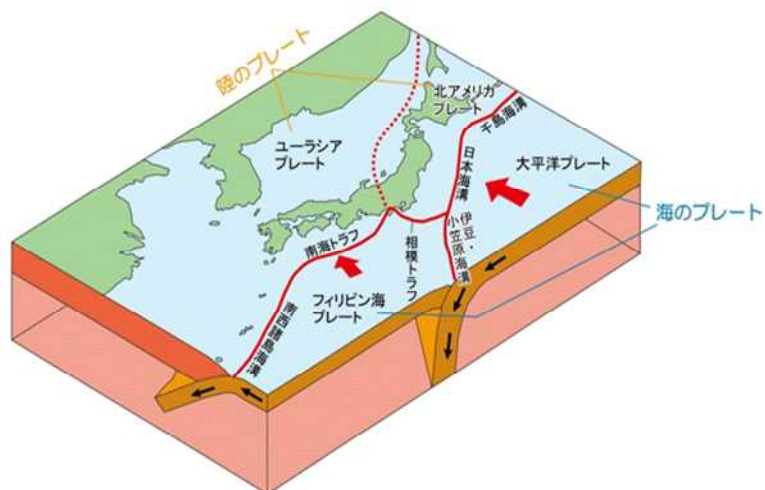


図1 日本列島周辺のプレート

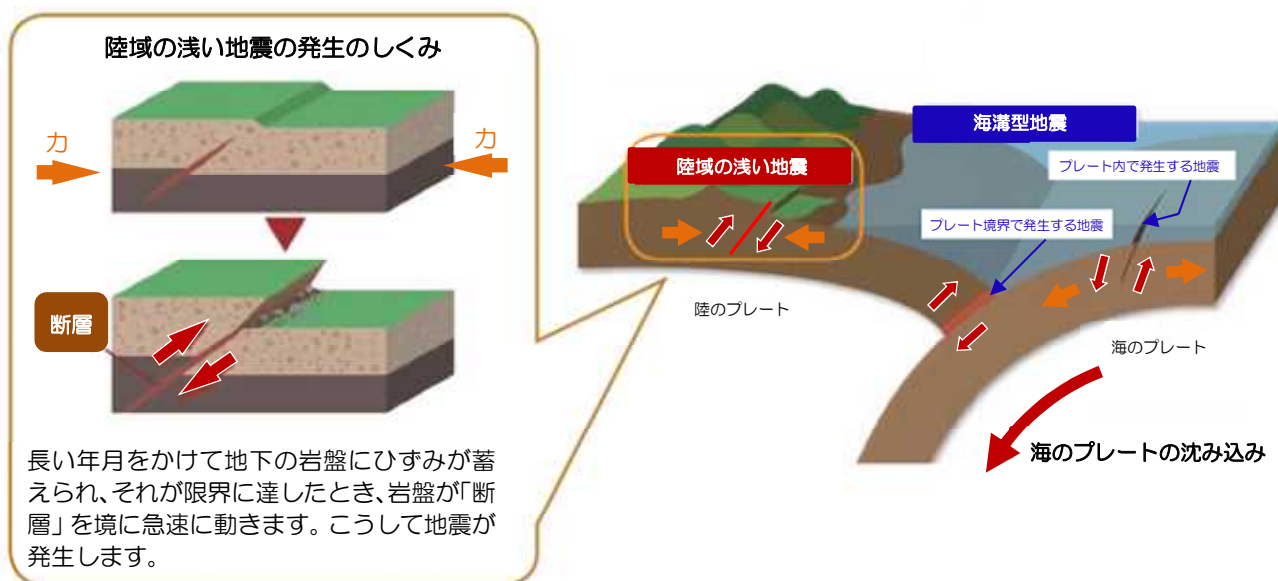


図2 日本列島周辺で発生する地震のタイプ

陸域の浅い地震は、海溝型地震と比べて、震源が浅く人の住む地域に近いので、地震の規模（マグニチュード）が小さくても、局所的に強い揺れを伴う場合があります。

陸域の浅い地震としては、平成7年（1995年）兵庫県南部地震、平成28年（2016年）熊本地震、平成30年北海道胆振東部地震などがあり、甚大な被害をもたらしました。

陸域の浅い地震の場合、震源に近い場所では緊急地震速報の発表が強い揺れの到達に間に合いません。突然の揺れを想定して事前に備えておくことが必要となります。日頃から家具の固定や身の安全を図る行動の確認などをおこなしましょう。